

令和 6 年第 422 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録（3 日目）

（令和 6 年 3 月 6 日 午後 1 時 00 分）

●議長（佐藤武雄） 休憩前に引き続き会議を開きます。

通告の 3、佐藤博一議員。

- 1、新年度予算について
- 2、指定管理者について
- 3、災害支援協定について

議席番号 6 番、佐藤博一議員。

◆6 番（佐藤博一） 議席番号 6、佐藤博一でございます。本日は 3 つの質問をしたいと思っています。新年度予算について。指定管理者について。災害支援協定について。この 3 つでございます。まず最初に新年度予算についてでございますが、4 日、5 日と昨日の二日間にわたりまして新年度予算が上程され、特に一般会計におきましては、我々も毎年予算を見させていただいていますが、2、3 目新しいものも見受けられ、これがある意味鈴木カラーが出てきたかなというふうに私は認識したのですが、まず町長にお伺いしたいと思います。町長のかかげる政策、公約、こういったものと予算との整合性について、これは 2 年前に町長選挙があったわけでございますが、そこに町長が出馬される際に掲げた公約はどんなものだったのでしょうかと。それについて公約と、また町長に就任されてから実際お仕事をされた上で、さまざま役場の 1 年間 2 年間過ごされてだいぶ慣れてきたことだと思われるんですが、そういったところで身についた町長の政策というものもあると思います。政策公約と今回の予算との整合性、そういったものがあれば住民の方にわかりやすい言葉でおっしゃっていただければいいかなと思います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただ今いただきました佐藤議員からの質問にお答えいたします。令和 4 年 12 月、私にとりまして初めての議会において申し上げたとおり、政策の基本方針といたしましては、住んでよかった信濃町を次の世代へというビジョンを掲げさせていただいたところでございます。先人たちが残した有形無形の遺産をしっかりと受け止めて、それに磨きをかけて次の世代に引き継いでいく。そういうことが大事であって、現在この信濃町に住んでいる私たちにはそれに取り組む責任があると、そのような考え方でございました。また、当面の目標といたしまして 4 項目ほど挙げさせていただきましたが、来年度予算の中でどんな形で反映されているのかというようなことに答えるような形で 2、3 申し上げたいと思います。まず、医療提供体制の強化につきましては、昨年 11 月に新病院の本体工事が 24 億円余りの工事費をもって契約となりました。本年は例年に無く小雪ということでございますので、想定していた時期よりも早めて工事を再開する予定としております。関連する町道の改良工事、また冷暖房に利用いたします

地中熱、それから道路の凍結防止のために地中熱を利用する予定としておりまして、それらをひっくるめた関連工事の進捗を図りながら、来年春、新病院がオープンできるように進めてまいりたいと思っております。2 点目といたしまして、子育て支援策の充実に関しましては、保育園に特に関連いたしますけれども、本年度スタートさせていただきました信濃町保育環境あり方検討委員会について、6 年度においては会議の回数を増やして精力的に検討を進めてまいりたいと考えております。また、新規事業にありましては、若者の移住定住、及び就業の促進を目的といたしまして、奨学金の返還を支援する補助制度を予定しております。具体的には、申請時点におきまして、奨学金を返済している 30 歳未満の若者に対して最長 3 年間補助する制度でございます。補助額については、町内企業に勤務する方に対しては年 15 万円、それ以外の方々には 10 万円を上限に返済額の 2 分の 1 を補助するという内容でございます。3 点目といたしまして、高齢者福祉の対策につきましては、令和 4 年から工事を進めていただきました、看護・小規模多機能型居宅介護施設の 24 床が令和 5 年 6 月 1 日に、また特定施設入居者生活介護ケアハウス 18 床につきましては令和 5 年 10 月 1 日にそれぞれ開業いたしました。現時点で両施設とも満床というふうに伺っているところでございます。またそのほか、令和 6 年度からの新規事業といたしまして、高校生並びに 65 歳以上の高齢者を対象に自転車のヘルメットの購入に対する補助等も行う予定としております。現時点でまだまだ目標には到達できておりませんが、今後とも引き続き、町民の皆さん方のご意見を伺いながらできる対応を重ねてまいりたいと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） 町の住んでよかったというところから信濃町のブラッシュアップしていくようなところへ言葉を変えて行かれ、そういった精神的な面も町長の思いと考えました。また、医療に絡めて療養病院の医療の中の 25 床の減った分を外へ向けていったところも昨年グランディングできたのかなというふうに、やり方を見させていただいた限りよかったかなと思います。若者や子育てと、そういった面にも目を向けていかれるということで、昨年開かれた若者会議で得られたものはありましたでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） はい。若者会議という銘うって会議を開かせていただきました。多くの町民の皆さんが参加していただいたのですが、本当に貴重なご意見の宝の山の会議でありました。また若者会議ではないのですが、小学校の 5 年生にも町への提言というような授業に取り組んでいただきました。こちらの方も本当に心が洗われるといいですか、素晴らしい提案をいただきましたので、こういった機会、ご意見を形にすることが私どもの役割だと思います。にわかには全てを実現することはかないませんが、一つ一つ対応していきたいと思っております。以上です。

令和 6 年第 422 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録（3 日目）

●議長（佐藤武雄） 佐藤博一議員。

◆6 番（佐藤博一） 昨年の小学校、また若者会議も何回か町長にお伺いしていましたので、期待は大きいものと思われれます。先ほど私も 2 つくらい気になったことを申し上げた、集落支援事業ともう一つの特定地域の組合を創設していく話ですけれども、ちょうど先般、商工会さんの会議に我々出させていただいたら、そこでそのような話も出ていたので、結構町も商工会と、そこに来ていた国会議員とも連携しているのだと思いました。これが生坂村さんのあたりの成功事例もあるので、そういったところも研究しながら新たに出されたものですから、うまく進めて行っていただければと思います。実際、町長もいろいろな思いを皆さんから聞いた中で、どのように具現化していくかということをおっしゃっていましたが、実際先ほど医療から若者から高齢者から様々な、どれがどれという優先順位はつけにくいと思うのですが、一番は町長が職員から上がってきたものを、職員の方が行政のプロだと思っているが、最終決断は町長にあると思います。その舵取り方向性は一番大事な役を町長が担っていると思いますので、実際職員から出てきた案等を今回も予算書なりに並べてあるわけですが、職員に対しての聞く耳を持って職員の皆さんと語ってきましたでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 予算編成の作業の経過について少し説明させていただきたいと思いますが、今年の予算編成の作業は 1 月 10 日から 30 日までの 13 日間の日程で行いました。各課長さん、係長さんと直接向き合いまして、第 6 会議室といいますちょっと狭い部屋なのですが、そちらでそれぞれの事業の現状と課題、今後の方向性などについて意見交換しながら進めたところであります。職員の皆さんとのコミュニケーションに関しましては、私も 15 か月を経過する中で職員の皆さんの気心を少しずつつかってまいりました。また、職員の皆さんの方も、私という人間をある程度ご理解いただけたのではないかと考えておりますので、全体を通してオープンな雰囲気の中で作業が進められたということであります。そうした中で職員からいただきました新たな提案といたしましては、先ほど佐藤議員もおっしゃられました、特定地域づくり事業があげられるかと思ひます。これは当初予算の方も 600 万円余の数字をあげさせていただいておりますが、人口減少地域におきまして人材を確保するとともに地域の活性化を図ることを目的といたしまして、人手不足に悩んでいる複数の事業者、この方々に組合を設立していただいて、そこに応募してきていただいた若いマルチワーカーといわれている、複数の仕事に季節ごとにローテーションを組んで携わっていただく、そのような仕組みでありますけれども、これを立ち上げるべく、6 年度においては仕組みづくりをはっきり決めたいと考えております。実際に稼働するためには参加する事業者数がある程度用意しなければいけない。またもう一つ、その組合の雇用に入って実際に仕事をしていただく職員の雇用をしなくてはならないということになりますので、少し時間は掛かるかもしれませんが、信濃町のように季節間格差といいましょうか、季節ごとに仕事の内容が大き

令和 6 年第 422 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録（3 日目）

く変動するような土地柄においては大変に有効なものではないかと考えておりますので、しっかりした計画の下にアウトラインを定めていきたいと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） 今の新たな事業の特定地域の組合の件ですけれどもこれについては、600 万という新規のお金を財源的に国の方から持ってきたいう、どなたか職員がいると思います。そういった面を十分評価してあげてほしいなと思いますし、他の職員におかれましてもこのような先進事例の職員がいることを見習って、何せお金のない町でございますので、他の人から引っ張ってくるべく研究・勉強していただければなと思います。そういった意味で町長が先ほど予算をヒアリング等をやっていく上で職員とコミュニケーションを取ってきたなど。多分我々がかつてやった時代の飲みニュケーションのような時代ではないので、お酒が入ってこないようではと言わないで、そこはお酒がなくても今できている状態でございますから、職員を大切にしていきたいと思ひますし、ある意味リスペクトをしてもらわないと職員はやっていられないなと思う点もありますので、最後は職員の責任者ですから、最後の責任を取るのは町長でございますので、そこは自由にのびのびと職員の知恵を使っていいただければなと思います。総務課長にお伺ひします。先般、一般会計の上程するときにゼロシーリングで今年やりますよと。これは一番まず責任者副町長になるのですかね。各課長さん方集めて、今年度は 11 月にやると思うんですけども、ゼロシーリングってこの間、総務課長がちらっとおっしゃったと聞こえたので、その辺の一番の本意を教えてください。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） ゼロシーリングというのは一般財源でゼロシーリングという形になります。これを決めるのは町長になります。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） はい。ゼロシーリングとなると、やはり一番は非常に厳しい財政的な状態に置かれていると。ましてや、今、原材料等も上がっている時代でございますから、これは今度、各課において予算立てした上で、知恵を絞って各事業を遂行しなければならない、イコール原材料等上がったものと思えば、非常に厳しい中で来年度を遂行していただければならないかなと思います。そういった意味で各課では頑張っていいただければなと思います。また、通告に書いておきました外部団体への補助金って書いてあるんですけども、実名をあげてしまえば商工会あたりなんですけども、ここ 10 年ぐらいずっと同じ金額なんですよね。やはりこういったところの外へも我々委員会でも何回か審査をさせていただいてますけども少しずつでも上げていくようなことを考えることはできないんでしょうか。これは産業観光課長さん、どうですか。

令和 6 年第 422 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録（3 日目）

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 商工会さんのということですかね。昨年陳情もいただいたり、10 パーセントというようなことでご要望もいただいていたかと思います。その後ですね、事務的にただ 10 パーセントというわけにはいきませんので、内訳書、内容等も予算編成に当たってほしいということをお願いをしていたわけなんですけども、その辺の資料が整わなかったもので、昨年と同額とさせていただいた状況です、以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） 通告にもなく、産業観光課長に送ってしまって申し訳ありませんが、実際問題商工会に限らず、毎年毎年同じ数字でというところがかなりあります。そこは実際、ゼロシーリングとはいえ、少しでも外の団体がお金を必要としているところがあると思いますので、また団体さんから少し勉強した上で役場に出すように私の方からもお話ししたいなと思っております。次 2 番目の質問に行きたいと思っております。指定管理についてでございますがこの 3 月会議に実際問題、指定管理につきましては、信濃町 6 つの施設というふうに町のホームページも出ておりまして、ひだまりとか、矢保利とか、ふれあい広場とか、道の駅関連は今回上程されておりますのでそれについての話ではなく、特に、黒姫の陸上競技場管理について担当課長にお伺いしたいなと思っております。黒姫の陸上競技場につきましては、平成 24 年制定の黒姫高原の保有地の管理等の設置および管理に並びに管理委託の条例があるんですけれども、その中に指定管理の業務というのがあって、もう 1 つが昭和 54 年に制定した信濃町営スポーツ施設条例の陸上競技場というところがあって、そこに第 10 条と 11 条に指定管理を置くことが書いてありました。去年も春先、私ども、議会でもこの指定管理について黒姫の競技場関連ですね、議決はしておったんですが、実際問題この夏を過ぎまして、大学の駅伝チームや高校生にかなり利用されたのは見ましたし、そういったお話も結構来て頑張っているんだという話も聞きました。いろんなところから来ていただけるのは、これは町としてみれば宣伝効果がかなりあるのではないかなと思いますが、担当課としてはそういった宣伝という意味ではどうお考えになっていますでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 高校生、大学生等の合宿で町内の宿泊施設をご利用いただいている点で、特に夏季のスポーツ合宿では数千人が訪れまして、3500 万円以上の直接効果があると推計しているところです。その他、お土産と小売店の利用も含めて、経済波及効果が大きいかな、というふうに認識しています。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

令和 6 年第 422 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録（3 日目）

◆6 番（佐藤博一） お伺いしたいのですが、今、高校生、大学生数千人ぐらいお見えだったということは、信濃町の観光で訪れる 80 万から 90 万人ぐらいの数字が多分あると思うんですけども、そういった中にもこの学生さんたちの数字は反映されているのでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） その中にも入っているかと思います。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） 陸上競技場に来ていただいている。これ、イコール、スポーツ目的で来ていただいているわけですけども、今、県などでもスポーツツーリズムという言葉を使い始めておりますが、信濃町としても、スポーツツーリズムというものの認識は担当課長はどのように思っているのでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） スポーツツーリズムというのは、スポーツを見る楽しむ、それだけの移動ではなくて、周辺の観光要素やスポーツを支える人々との交流や地域連携を付加した旅行スタイル、というようなことがそうです。当然このようなことで交流人口増加、スポーツの切り口で日本の他種多様な観光資源を現在化させて日本の観光力を向上させるということもございますので、国内旅行の活性化、インバウンドの推進とか、広い意味でそういうところにつながっていくのかなと思います。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） 説明ありがとうございました。午前中も同僚議員から質問がありましたけれども、夏のトライアスロン競技が実行委員会の方で中止にされたという話も聞きました。これがまさに 30 数回開いた大会でございますので、スポーツツーリズムの信濃町においても先駆けであったのではないかなと思うんですが、トライアスロンに関しましても、完全に今後も一切お断りという話ではないと思いますので、今年度は理由があると思いますが、またトライアスロンの団体との交流の関連を保ちながら、信濃町からスポーツ関係というものもまだまだできるんですよというところを残しておいていただければと思います。黒姫陸上競技場の指定管理につきましては、現実問題を私が見ていても、過去にいくつか団体をお願いしてきたのは見えています。特に今年の夏について、非常にグラウンドの周りがきれいに整備されていたという評価が、学生さんから相当私聞いておるんです。その辺は役場としては評価というものはどのように聞いていますか。

令和 6 年第 422 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録（3 日目）

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 直接的なグラウンドの管理状況に関する評価ということでは特にお聞きはしておりません。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） 先ほど評価は聞いていないけれども、数千人が来て 3500 万円以上の経済効果があったと、まさにそちらの方の数字だけはつかんでいるので、もうちょっと突っ込んで今度は学生さんなりに担当課としても夏に出向いて意見を聞いてみるとかどうですかというようなやり方をもらった方がさらに宣伝効果等も深まると思いますので、また来年以降もそういったことで足しげく運んでもらえば、さまざまな状況をつかめるのではないかなと思います。3 年契約で、去年結ばせてもらったのですけれどもまたあと 2 年間も無事に担当課として指定管理として黒姫を維持できていけるとと思いますか。課長お願いします。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 3 年契約をしておりますので、残りの 2 年間につきましても、契約に基づきまして、引き続き管理していただく予定でございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） 担当課長が引き続きちゃんと頑張っていただけるようにやっていたくというふうにお答えしていただきましたので、その旨やっていただけるように、我々も見守り守っていきたいなと思っております。また、指定管理という面で見えていきますと、黒姫の陸上競技場に関しては 3 年だったと思うんですが、3 年という契約期間が短かすぎるのではないかなと思います。いかに合理的に管理をして、町はどのような指導を行っていけるかと、3 年ってあっという間に終わってしまうのではないかなと思うんです。地方自治法を調べてみたら 3 年から 5 年って数字は出ていないんですよね。期間を定めてということしか出ていないので、これが黒姫についてだけうかがうとどうして 3 年になっているのか教えていただければ、そこだけお答えください。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 前に指定管理の期間も 3 年でしたので、昨年から同じ期間を設定させていただいたという経過がございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

令和 6 年第 422 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録（3 日目）

◆6 番（佐藤博一） これについては前例踏襲ということでやったということですが、リスクを長くやることによるリスクの軽減もあるだろうし、サービスの継続していくという面とか安定化もある。でも逆を言うと長期の固定化しちゃって弊害が出てくる。非常に 3 年から 5 年が微妙なところみたいなんですけども、他の指定管理についても担当課の産業観光課長だけをお伺いすれば、預かっていらっしゃる、他の道の駅関連とかそういったところも全部、前のとおりを踏襲しているという考えだけでよろしいですか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 例えば堆肥センターは 3 年でやっております。こちらについては、設立当初から JA さんをお願いしていたということもあって、他の JA さんの指定管理も 3 年であったり、あと道の駅につきましては 5 年ということで、従来からやっております。施設施設でいろいろな施設の運営の仕方とかそういうものが違ってきますので、一概に何年スパンがいかを見直しながらやっていく必要もあるかと思います。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） 最後に課長さんに答弁していただいたように見直しながらやっていく。それは当然、施設の性格等も考慮しながら決めていくことでございますので、またそういう方向で進んでいただければと思います。次に災害支援協定についてお伺いします。今年になっての当然、我々の姉妹都市の能登町さん関連で総務課長からいろいろお話も先ほどから聞いておりました。我々、姉妹都市を結んでいるのは、当然流山と能登町だけでございます。この両市・町は姉妹都市協定とともに災害の応援協定を結んでおります。総務課長さんにお伺いしたいのですが、こういう姉妹都市協定と応援協定というのはセットものなんでございましょうか。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） セットものということではないと思うんですが、姉妹都市の協定と災害時の応援協定とは別物で、それぞれ締結をさせていただいているところでございます。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） はいわかりました。そういった意味で別物だよというのは、今うちで結んでいる東白川村は応援協定だけですね、この締結されたその経緯を教えてくださいと思うんですが、お願いいたします。

令和 6 年第 422 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録（3 日目）

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） 東白川村さんとは、平成 29 年 2 月に、町産材の利用促進による経済循環促進を目的としては今産業観光課で行っております、フォレストスタイル事業、それを取り組むために、相互協力協定書の調印を縁に、災害時の相互応援協定を平成 29 年 10 月に締結させていただいたところでございます。この他にも、平成 26 年 2 月に山梨県の豪雪災害の支援が縁で、平成 26 年 10 月に山梨県富士吉田市と、また同じ年の豪雪災害にあった軽井沢町と、軽井沢は県内なんですけど、また特別に同じ平成 26 年 10 月に協定を結んでおります。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） 東白川村の経緯は理解しました。今、富士吉田と軽井沢につきまして私は私もすみません、関わりました。豪雪の時、職員が行っていただいて機械を持ち込んでやった記憶があります。消防に関してのこういった応援協定ですね。妙高市のホームページにちょっと見たら、消防に関して信濃町という名前が出てきたんですがそういった応援協定を結んでいるのでしょうか。また近隣どこかの消防に関しての応援協定を結んでいるところがありましたら教えてください。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） はい。消防に関しての応援協定というのは、まず長野県の消防相互応援協定というものがございます。ただし、これは信濃町は消防事務を長野市に事務委託をさせていただいておりますので、受託している長野市に行っているところでございます。今、お話のあった妙高市の関係でございますが、これは昭和 51 年から、当時は旧妙高高原町でございしますが、消防応援協定を締結しておりまして、それは当町の熊坂、柄山、赤川、高沢地区、あと古海地区、あと妙高市の田口、兼俣、関川、杉野沢地区等において建物災害が発生した場合、または山林火災、風水害等の災害で消防団の方です、こちら応援協定を結んでおりまして、それが現在の妙高市に引き継がれているというところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） はい、消防について関心があったものですから、今の説明で川を挟んで、まさに兩岸の県ということで理解しました。非常に重要な地域でございしますので、お互いに活かしあうというところが、それについて妙高市さんとも、何か懇談というか、事務方で何か会うことはあるんですか、

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

令和 6 年第 422 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録（3 日目）

■総務課長（松木和幸） 消防団で言いますと、うちで言うと出初式に妙高市の団長さんをお呼びしたり、また妙高市で行われる、これは出初式というふうには言わないんですけれども、総合防災訓練みたいな、総合出動訓練みたいなのがありまして、これは妙高高原町、旧妙高高原町時代からお呼ばれをさせていただいて、そこには正副団長、消防主任も行って、その演習を見させていただいたり、うちの出初式を見ていただいたりしていたというつながりが昔からあるところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） はい、理解し、より深めましたありがとうございます。次にですね、いつもこれちょっと思っていることなんですけれども、我々の町はどちらかというと財政的にも結構貧弱な町じゃないかなと思います。そういった意味で姉妹協定をですね、今のところ一つの市と一つの町と結んでおりますが、これがもっと遠方となりますと、負担が我々の町って非常に大きく来るのではないかなと、我々の今も結んでおります流山市のあたりは体力あるところだなというふうに見ております。先ほどの富士吉田市、軽井沢町ももっと体力が、特に軽井沢は不交付団体でございますが、体力あるところだと思います。一番ちょっとこれは町長にお願いですが、前、昨年小林市に行かれました。野尻という地名の名残というか、そのお話も聞きました。これですね、九州でありますから、町長がちょっと行って帰ってくるぐらいはいいにしても、姉妹都市を結ぶということは私はできるだけ避けてほしいなと思いますし、ましてや災害の応援協定。これは九州までどうやって持って行くんですかということも、お金だけ、例えばやればいいのかもしれませんが、そういうものではなく、それよりも遠くの親戚よりやっぱり身近な他人さんを大事にして、近隣の先ほど総務課長からのあった隣の妙高市とか、やはり飯綱町さんとか、あるいは我々旧上水内、今この長野市界限ですよ。せいぜいそこどころまでではないかなと思っているんです。これがもっと南の方まで職員が行ってくるってやっぱりそれは言いにくいと思うんですよ。行ってこいじゃない、行ってくださいとも言えない。これ職員にしたらそんなきつい話ないと思います。能登へ行った総務課長が4日の日か何か行ってますけども、それぞれ我々周りから見ても結構大変だなと、それだけご苦労されるのは。最後、町長も先月行かれましたけども、9日にですね、やっぱりそういうことを考えても、一番最初に先鞭を切っていかなきゃいけないのは職員です。その職員にやっぱり遠くに行かせ行かすということはそれだけ危険にさらすということですし、うちみたいなこれだけ体力のない町ですから、よそとこれからあんまり間口広げて姉妹都市ですね、結ぶことは、最後、町長なりの判断でしょうけども、できるだけ慎重にお願いしたいなと思うんですが、町長お考えはどうですか。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） はい姉妹都市でございますけれども、これの締結にあたりましてはですね、佐藤議員おっしゃるとおりですね、慎重に判断しなければならないと思ってお

令和 6 年第 422 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録（3 日目）

ります。ただしその前段です、友好関係を結んでですね、相互に気軽に行き来ができる。例えば子どもたちあるいはお年寄りの皆さんが気軽に行き来できるような関係作りをですね、その大きな負担を伴わないというような条件があればクリアできるのではないかと思いますので、いろんな形をですね想像しながら今後検討してまいりたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） やっぱ九州であってもですね、経費はかかるものはかかるので、それは本当に慎重にお願いしたいと思っております。もしですね、本当に経費かけてもいいというのが私は野尻湖関連で海外と姉妹都市協定結んだ方がもっと面白いと思っております。野尻湖の最初の観光地として発見してくれたストーン先生とかいらっしゃいますし、そういった先人の歴史を調べて野尻湖というものを世に売っていく。これからさらに世界的にもっと売っていく。そういうことを考えますと、それまあ 10 年くらい前のある海外のカレンダーに野尻湖が出たことがあるんですよ。それは私も記憶しているんですけども、それだけ海外の人にしてみれば野尻湖というところは、私はまだまだ売れる材料だと思います。ただし海外と結ぶとなるともっとお金がかかる話ですので、お金をかけないようにできる方法を考えていただきながら、町長が慎重にやっていただく、ということを目指したので、これで一般質問を終わります。

●議長（佐藤武雄） 以上で、佐藤博一議員の一般質問を終わります。この際、午後 1 時 55 分まで休憩といたします。

（終了 午後 1 時 43 分）